

## Q&amp;A

## 自然消退後に再燃を繰り返した肝腫瘍

## 【問題】

症例：68歳，男性。

主訴：発熱。

既往歴：糖尿病。

飲酒歴：なし。

現病歴：20××年9月下旬に発熱を主訴に前医を受診し，炎症反応の上昇と肝腫瘍性病変を認めた。この時点では肝膿瘍が疑われ，約1カ月間 SBT/CPZ, MEPM, FLCZ, LVFX, MINO の各種抗菌薬が投与されたが改善がみられなかった。その後抗菌薬を中止し保存的に経過観察したところ，炎症反応は正常値となり肝腫瘍も完全に自然消退したため，11月下旬に退院となった。翌年の1月中旬に再度発熱が出現し，炎症反応高値と肝内に多発する肝腫瘍性病変を認めたため，当院に紹介入院となった。

身体所見：身長157cm，体重50kg，血圧

122/60mmHg，脈拍72/分，体温37.3℃，診察所見には特記事項なし。

血液検査：白血球数7600/ $\mu$ l，血小板数33.0万/ $\mu$ l，AST77IU/l，ALT106IU/l，ALP518U/l， $\gamma$ GTP131IU/l，総ビリルビン0.3mg/dl，アルブミン3.3g/dl，CRP13.37mg/dl，プロカルシトニン0.2ng/ml，IgG929mg/dl，IgG416.9mg/dl，AFP<2.0ng/ml，PIVKA-II14mAU/ml，CEA1.8ng/ml，CA19-911.2U/ml，HBs抗原(-)，HCV抗体(-)，抗核抗体<40倍，抗ミトコンドリアM2抗体<5index，HbA1c6.8%。

画像検査：造影CT (Figure 1)。

## 診断は？

解答は(1545p)に掲載

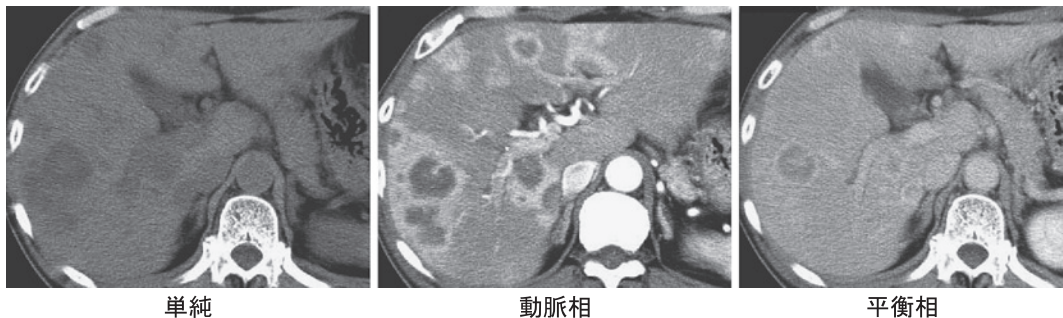


Figure 1.